

平成 22 年 6 月 1 日

大学記者会 加盟各社 御中

東京大学広報室長
武田 洋幸

濱田純一総長取材等のご案内

任期 2 年目を迎えた今春、東京大学の濱田純一総長は、行動シナリオ（後述参照）を発表したところですが、来る 6 月 7・8 日に「東京大学プレジデント・カウシル」開催のためにニューヨークを訪問するにあたり、東大の今後の活動理念・行動ビジョンから、特に東大の国際的な存在感の向上のために東大が目指す方向性や国際化を推進するための戦略を、報道機関の方々に 6 月 8 日（火）に自ら海外で発する機会を次のとおり設けましたので、現地にご駐在されている方を中心に是非取材にお越しくださるようご案内いたします。

さらに、前日 7 日夕刻に本学主催のプレジデント・カウシル レセプションを開催しますので、併せてご参加くださるようお願いいたします。

なお、一連の行事及び参加者の方々については、後述をご覧ください。

【総長取材日時・場所】

6 月 8 日（火）14：15～15：15

於：日本クラブ The Nippon Club, Inc.

145 West 57th St. New York, N.Y.10019 TEL 212-581-2223

【プレジデント・カウシル レセプション日時・場所】

6 月 7 日（月）18：00～19：30

於： Estrela PENTHOUSE, The Parker Meridien NY

119 West 56th St. New York, NY 10019 TEL 212-245-5000

準備の都合がありますので、ご参加いただく場合は 6 月 3 日（木）までに総務部広報課（下述）までご連絡ください。

〈担当〉

東京大学総務部広報課

〈総長取材の主要トピック（予定）〉

1. 東京大学の行動シナリオ「FOREST2015」策定の経緯と概略

行動シナリオ「FOREST2015」とは：

濱田総長が、昨年4月の就任以来一年をかけてまとめた、2015年までの任期中に目指すもの、またその実現のための戦略を明らかにするために作成したもの。「行動ビジョン」、「重点テーマ別行動シナリオ」、「部局別行動シナリオ」から構成される。

2. 行動ビジョンから、「東京大学の知の公共性と国際性」、「真の教養を備えたタフな学生」。

3. 重点テーマ別行動シナリオから、「グローバル・キャンパスの形成」、「卒業生との緊密なネットワークの形成」（好例としてNY銀杏会を紹介。今後、特に海外在住の卒業生を掘り起こし、東大の経営基盤の将来的な支えとして、グローバルな alumni ネットワークの強固な再構築とインタラクティブな活動の強化を図る）

〈プレジデント・カウンシルの説明〉

6月7・8日に第7回プレジデント・カウンシル会議開催のため、濱田純一東京大学総長がニューヨークを訪問（プレジデント・カウンシルは、東大総長のインターナショナルアドバイザリーボード。2006年11月発足。別添資料参照）。

同会議の主要プログラムは以下のとおり：

1. NY銀杏会（海外設置の東大同窓会としては最大の組織）役員との懇談
2. レセプション（カウンシルメンバー、NY銀杏会会員、米国の学術機関、国際機関、企業関係者等多数を招待）
3. カウンシル本会議
 - 会議テーマ："Changing Higher Education in the United States"
 - 出席者：（東大）総長、理事、その他役員；（カウンシルメンバー）タイ王国第三王女殿下、Dr. V. Gregorian、Dr. R. Colwell、Mr. P. Laudicina、Dr. K. Raivio、Mr. S. K. Munjal、吉野洋太郎先生、黒川清先生、横山禎徳氏）

※この会議の取材はできませんので予めご了解願います。

(別紙)

東京大学プレジデント・カOUNシル

【設立目的】

グローバル化進展と新たな局面を迎えた世界情勢に伴い、大学にも国際的競争力が求められている現在、東京大学が世界的にも堅固なポジションを確立することが喫緊の課題となっております。これを踏まえて、東京大学の国際的プレゼンスの向上をめざし、そのための包括的戦略の策定と行動指針に関わる助言、ガイダンス、および支援を仰ぐため、2006年11月に、総長の国際アドバイザリーボードとして、プレジデント・カOUNシルを設置いたしました。

国内外の有力企業人、学識経験者など各分野の第一人者を招聘、これらの卓越した方々と総長以下東大役員とで、年に2回会議を開催（春期開催地は海外、秋期開催地は本学キャンパス）、以下のような課題の分析と展望について討議を致しております：

- 東京大学への世界的認識の向上
- 学術リーダーシップの確立
- 国際交流促進
- グローバル・ネットワーク拡充
- 基金形成

具体的な成果として、これまでの会議から得た提言をもとに、以下が実際に発足、継続的に活動を推進いたしております：

- G8 大学サミットにかかわる助言
- インドとの学術交流推進
- 東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラムに関わる提言

【概要】

1) 発足： 2006 年 11 月

2) メンバー構成： 15 カ国より 28 名（別添メンバーリストをご参照ください）

国： 日本、米国、英国、タイ、インド、韓国、香港、台湾、
オーストラリア、フランス、ドイツ、イタリア、スイス、
フィンランド、サウジアラビア、

構成： 王族（タイ王国王女殿下）、海外政界（韓国首相）、
国内外有力企業人、学識経験者、国際機関関係者等

3) 活動： 年 2 回、2 日間の日程で、本会議とレセプション、及び関連行事（カウンスルメンバーによる講演会、総長とメンバーの公開対談、メンバーと本学教員によるシンポジウム、本学学生とのディスカッション、等）を開催致しております。開催地は、原則的に春期は海外、秋期は本学キャンパスとしております。

4) 過去の実績：

第 1 回 東京会議 2006 年 11 月 14-15 日

【テーマ】東大の環境認識、自己分析、戦略、国際的イメージ、

第 2 回 ロンドン会議 2007 年 5 月 17-18 日

【テーマ】第一回会議のフォローアップ、国際的によりオープンに、価値を提供するための具体的施策

第 3 回 東京会議 2007 年 11 月 8-9 日

【テーマ】国際的な大学間連携と東大に期待されるリーダーシップ、学生の国際化

第 4 回 ニューデリー会議 2008 年 4 月 28-29 日

【テーマ】インドと東京大学の教育研究面での協力拡大

第 5 回 東京会議 2008 年 11 月 20-21 日

【テーマ】発足以来 3 年間の活動総括と国際情勢。東大の研究機関と活動の紹介

第 6 回 東京会議 2009 年 11 月 19-20 日

【テーマ】東大の教養教育

（2009 年春期は 4 月の総長交代に伴い、開催いたしませんでした。）

5) 今後の予定：

第 7 回 ニューヨーク会議 2010 年 6 月 7-8 日

第 8 回 東京会議 2010 年 11 月 18-19 日

【 東京大学プレジデント・カOUNシル メンバー 】 ※今回参加予定者は氏名にアンダーライン

- ・ チュラポーン 王女殿下 (タイ 大学教授 / 研究者 / チュラポーン研究所代表)
- ・ 安藤 忠雄氏 (日本 建築家 / 東京大学 特別荣誉教授)
- ・ ジャック アタリ氏 (フランス A & A [個人事務所] 代表)
- ・ モーリス チャン氏 (台湾 TSMC 創設者・会長)
- ・ 張 富士夫氏 (日本 トヨタ自動車株式会社 取締役会長)
- ・ ウンチャン チョン氏 (韓国 国務総理/ソウル大学経済学部教授 / ソウル大学前総長)
- ・ ベルトラン コロン氏 (フランス ラファージュ・グループ・名誉会長)
- ・ リタ コルウェル氏 (米国 メリーランド大学、ジョンズ・ホプキンズ大学 特別荣誉教授)
- ・ イアン ディヴィス氏 (英国 マッキンゼー & カンパニー シニアパートナー)
- ・ ビル エモット氏 (英国 著述家 / コンサルタント)
- ・ ビクター フォン氏 (中国 香港 利豊 [リー&フォン] グループ・ノン・エグゼクティブ・チェアマン)
- ・ フレデリック G. ヒルマー氏 (オーストラリア ニュー・サウス・ウェールズ大学学長)
- ・ ハッサン ジャミール氏 (サウジアラビア アブドゥル・ラティフ・ジャミール社ディーラー・デベロップメント部 部長)
- ・ 黒川 清氏 (政策研究大学院大学教授 / WHO Commissioner / 日本医療政策機構 代表理事 / Governor, American College of Physicians Japan Chapter /Senior Scientist, The Earth Institute, Columbia University / 東京大学名誉教授) 東京大学医学部卒業。同大学院医学研究科修了(医学博士)。
- ・ ポール A. ラウディシナ氏 (米国 A.T. カーニー社 会長、マネージング・オフィサー)
- ・ ユルゲン ムュイネク氏 (ドイツ 国立ヘルムホルツ研究所代表)
- ・ スニール カント ムンジャル氏 (インド ヒーロー・コーポレート・サービス社会長 / ヒーロー・サイクル社マネージング・ディレクター)
- ・ N.R. ナラヤナ ムルティ氏 (インド インフォシス創設者・会長、チーフ・メンター)
- ・ 岡村 正氏 (日本 日本商工会議所会頭 株式会社東芝 相談役)
- ・ ジャネミリオ オスキュラッティ氏 (イタリア バロレ社 会長)
- ・ カリ オラビ レイビオ氏 (フィンランド ヘルシンキ大学 名誉学長)
- ・ チャールズ P. ロックフェラー氏 (サザビーズ社シニア・クライアント・リエゾン)
- ・ クラウス シュワップ氏 (スイス 世界経済会議 [ダボス会議] 創設者、エグゼクティブ・チェアマン)
- ・ マイケル スペンス氏 (米国 スタンフォード・ビジネス・スクール名誉教授 / オーク・ヒル・キャピタル・パートナーズ パートナー)
- ・ 横山 禎徳氏 (日本 社会システムデザイン研究所代表 / 元マッキンゼー社東京支社長)
- ・ 吉野洋太郎氏 (米国 ハーバード大学ビジネススクール名誉教授)
- ・ 小宮山 宏氏 (三菱総合研究所理事長/前東京大学総長)
- ・ ヴァルタン・グレゴリアン氏 (カーネギー財団理事長)